

中日本地区YMCA
第19回(2018年度)
グローバル教育研修会
〈報告書〉



2019年2月16日(土)~17日(日)
於:六甲山YMCA

主催:日本YMCA同盟

主管:中日本YMCAグローバル教育研修会実行委員会

協力:ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

目 次

第 19 回 グローバル教育研修会プログラムP1-2
開会礼拝P3
セッションⅠP4
セッションⅢP5-6
セッションⅣP7
朝のつどいP8-9
セッションⅤP10-12
セッションⅥP13-14
閉会礼拝P15
参加者名簿P16
決算報告P17



中日本地区 YMCA 第 19 回(2018 年度)
グローバル教育研修会
【プログラム】

1日目[2月16日(土)]	
12:30p.m.	
1:00p.m.	開会礼拝 司会 橋本 唯(神戸YMCA) メッセージ 片岡正義(神戸YMCA)
1:20p.m.	セッション I 【オリエンテーション】
1:30p.m.	担当 田尻忠邦(大阪YMCA)
2:00p.m.	【SDGsとは】 担当 山本佳史氏(ソーシャルギルド代表理事)
2:10p.m.	セッション II 【YMCA活動報告】 担当 梶原シャーリー(大阪YMCA)
3:30p.m.	1. ソーシャルエンタープライズプロジェクトチーム ドミニク パングラッシオ(大阪YMCA) 2. グローバルユースカンファレンス 梶原シャーリー・北田まあや(大阪YMCA)
3:40p.m.	セッション III 【知る】
5:40p.m.	3. 日中韓平和フォーラム中間報告 高彰希(日本YMCA同盟) 4. ラオスワークキャンプ 高月渚(神戸YMCA) 担当 山本佳史氏(ソーシャルギルド代表理事)
5:40p.m.	チェックイン
6:00p.m.	テーブルマスター (富山YMCA)
7:00p.m.	セッション IV 【自分事にする】
8:30p.m.	担当 山本佳史氏(ソーシャルギルド代表理事)
8:30p.m.	懇親会 進行 ドミニク パングラッシオ(大阪YMCA) ※時間を区切ってお開きにし、あとは自由時間に。 ※入浴は、11:00p.m.までに！
11:00p.m.	就寝

2日目 [2月 17 日(日)]	
7:00a.m.	【朝の集い】 司会 松田道子(神戸YMCA)
7:50p.m.	メッセージ 林美恩(神戸YMCA)
8:00a.m.	テーブルマスター (滋賀YMCA)
9:00a.m.	セッションV 【形にする】 担当 山本佳史氏(ソーシャルギルド代表理事)
11:50am	
12:00p.m.	テーブルマスター (奈良YMCA)
1:00p.m.	セッションVI 【伝える】 担当 山本佳史氏(ソーシャルギルド代表理事)
2:50p.m.	
3:00p.m.	閉会礼拝 司会 上村香野子(富山YMCA) メッセージ 三枝隆(奈良YMCA)
3:30p.m.	解散

※ 貴重品(財布、携帯など)は必ず持ち歩いてください。

※ 10分前行動を心がけましょう。

※ 部屋の鍵をどうするのか、同室の人どうして相談し、声を掛け合しましょう。

※ 来た時と同じ状態に戻してチェックアウト。

※ 使用済みシーツは入り口に近くにたたんで置くこと。

※ みんなでつくる研修会。機転をきかせて助け合しましょう。

※ 1人ひとりが主役。尻込みは大敵！

中日本地区 YMCA

第 18 回（2017 年度）グローバル教育研修会 開会礼拝順序

日時： 2019 年 2 月 16 日（土） 13：00～13：20

場所： 六甲山 YMCA

司会： 橋本 唯（神戸 YMCA）

黙祷

賛美歌 21 509 番 「 光の子になるため 」 一 同

聖書朗読 マタイによる福音書 5 章 13～16 節 司会者

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

祈 祷 //

メッセージ 「地の塩、世の光、人の盾」

片岡 正義（神戸 YMCA ミッション委員）

祈 祷 //

賛美歌 21 563 番 「 ここに私はいます 」 一 同

黙祷

セッション I

ソーシャルギルド代表理事

山本 佳史氏

「SDGs とは」

SDGs とは、Sustainable Development Goals の略である。2015 年 9 月、ニューヨークの国連総会で、世界の国々がSDGsに合意した。この合意により、貧困を終わらせ、すべての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、よりよい生活を送ることができる世界を目指して、世界中が努力することが約束された。2016 年から 2030 年までの 15 年間の行動計画であり、17 の目標と 169 のターゲットで構成されている。

これらの目標についての説明がなされ、あなたにとって「持続可能な社会」とは何か、という問いかけから、個人で考える前に多様な組織(国連、NGO、経団連、金融、消費者、市民)からみた SDGs を学んだ。



セッションⅢ

ソーシャルギルド代表理事
山本 佳史氏

「知る」

1. アイスブレイク

7グループに分かれて、自己紹介、グループへの貢献度、研修会への期待を共有。

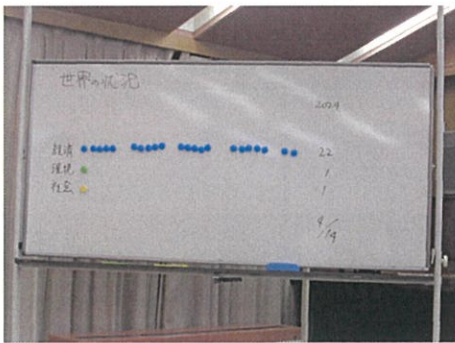
2. SDGs をゲーム「2030 SDGs」で体験

人生のゴールを目指しながら 2030 年の世界づくりを体験するゲームを行った。2024 年を境に、前半後半と行動タイムを分け、ゲームを進めた。

中間報告にて 2024 年の世界状況は、経済指標が 24、環境指標1、社会指標1となっていた。経済は非常に発展し過熱状態であり、環境は破壊され、環境汚染が続いている。また社会は崩壊し、人を信じることができない、信用できるのは 10 年来の幼馴染だけ、という世界となった。

後半の行動タイムを終え、2030 年は 95%が人生のゴールを達成できた。経済の指標は 23、環境 9、社会8であった。

振り返りには、カードコーチング「Points of you」を使用し、自分たちで創った 2024 年の世界に対して感じたことや思ったことを、直感・インスピレーションでカードを選び、選んだ理由を共有した。



以下、参加者の気づき。

- ・富を集めることだけに集中し、満足感や喜びを得たが、一方で寂しさやむなしさを感じていたのか、しわくちゃの手や悲しそうな顔の写真カードを選んでいった。富を集めていた4名とも同じような印象を受けるカードを選んでいった。
- ・始めは自分たちのゴールを達成するために世界の状況を省みずに行動していたが、ゴールを達成し、余裕が生まれたときに初めて他人や世界に意識が向いた。カードに写されている人も豊かでないのに、他人に水を分けている様子は、理想の姿であるが、現実お金は大事だし、余裕がなければ行動できない、とても難しいと思った。
- ・スコップの上に鳥が止まっている写真カードを選んだ。経済だけが発展した世界の中で、これから人間は環境のために働きかける一方で、鳥も人間が創りだした世界に順応していくというイメージを持った。
- ・ラインの上に両足が写っており、少しだけそのラインを越えようとしている写真カードは、環境や社会を省みない行動によって、一線を越えてしまったという2024年の世界を表現していると思った。
- ・小さな穴に顔を突っ込んでいる写真は、経済の発展に集中しすぎて、周りが見えていない象徴のように思えた。
- ・汚い、黄色い水の中に顔が息苦しそうなのは、環境汚染された世界にいる今の私たちを表現していると感じた。



セッションⅣ

ソーシャルギルド代表理事

山本 佳史氏

「自分事にする」

ゲームを通してSDGsに触れた後、17の目標に対して、身近な「自分」、活動場所としての「YMCA」、そして「世界」へと、視野を広げながら、どのようにつながっているのか、グループに分かれて意見を交わした。その後グループ毎に交わした意見を発表した。

以下のようなグループがあった。

- ・YMCA活動を挙げ、その活動がSDGsのどの目標に当てはまるのかを考え、YMCA活動で足りない目標を抽出したグループ
- ・今実際に関わっている活動とSDGsを結び付けていくグループ
- ・今の関わり、YMCA活動と、SDGs17の目標を結び理解を深めたグループ
- ・SDGs17の目標を縦軸に、「自分」「YMCA」「世界」を横軸にして、グループメンバーが書き出した活動内容をそれぞれに当てはめていったグループ
- ・SDGs17の目標を最初から順番に丁寧に読み込んで、現代の課題と結びつけたグループ
- ・今行っている活動が、どの目標に関係するのか、またどの目標と複数繋がっているのか検討したグループ

以上、それぞれのグループが集まったメンバーとともにどのようにSDGsを理解しているのか、またどのような課題に向き合っているのか、またそれを解決できるのか、制限された時間の中で最大限の知恵を絞って考えた。



中日本地区 YMCA

第 18 回（2017 年度）グローバル教育研修会 朝の集い

日時： 2019 年 2 月 17 日（土） 7：00～7：50

場所： 六甲山 YMCA

司会： 松田 道子（神戸 YMCA）

黙祷

賛美歌 21 361 番 「 この世はみな 」

一 同

聖書朗読 創世記 1 章 1 節～2 章 3 節

司会者

「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。

「光あれ。」

こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

神は言われた。

「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」

神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。

神は言われた。

「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」

そのようになった。神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。神は言われた。

「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれ種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」

そのようになった。地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。

夕べがあり、朝があった。第三の日である。

神が言われた。

「天の大空に光る物があって、昼と夜を分け、季節のしるし、日や年のしるしとなれ。天の大空に光る物があって、地を照らせ。」

そのようになった。神は二つの大きな光る物と星を造り、大きな方に昼を治めさせ、小さな方に夜を治めさせられた。神はそれらを天の大空に置いて、地を照らせ、昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせられた。神はこれを見て、良しとされた。夕べがあり、朝があった。第四の日である。

神は言われた。

「生き物が水の中に群がれ。鳥は地の上、天の大空の面を飛べ。」

神は水に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物をそれぞれに、また、翼ある鳥をそれぞれに創造された。神はこれを見て、良しとされた。神はそれらのものを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ。」

夕べがあり、朝があった。第五の日である。

神は言われた。

「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」

そのようになった。神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。神は言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

神は御自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女を創造された。

神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

神は言われた。

「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」

そのようになった。神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

天地万物は完成された。第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

祈 禱

//

メッセージ

林 美恩

(日本基督教団神戸聖愛教会宣教師)

祈禱

//

賛美歌 21 426 番 「 私たちを生かす」

一 同

黙禱

セッションV

ソーシャルギルド代表理事

山本 佳史氏

「形にするーポジティブネットの視点からー」

個人として大事にしたい SDGs、活動やチームとして大事にしたい SDGs をテーマに 17 の目標のうち 8 つを選んで優先順位を付け、その活動内容と順位の理由・ポイントについて用紙に書き出し、グループで共有した。

以下、参加者の気づき。

- ・教育について学んでいる人は、教育を優先する傾向があること、個人的に 9、17 を身近に捉えることができないことに気づいた。
- ・グループには、教育に高い優先順位をつける人が多かったが、自分だけ異なり、環境関係の優先順位が高いことがわかった。
- ・個人に焦点をおくと、ライフステージによって異なることがわかった。

今回のテーマとなるターゲットを決めるため、参加者それぞれが希望する目標に投票し、以下 5 つの目標を選んだ。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">4. 質の高い教育をみんなに5. ジェンダー平等を実現しよう8. 働きがいも経済成長も12. つくる責任つかう責任16. 平和と公正をすべての人に |
|---|

ワールドカフェ形式(カフェで雑談をしているような気持ちで、リラックスして)を用いて、目標に対して次の問いを考えた。問い①その課題に対して自分ができそうなこと、問い②ゲームと現実の違い、問い③他の目標との接点や共通課題、問い④今すぐ行動するならば、何を行動するか、問い⑤フリートークを行った。ラウンド1では、問い①について語り合っシャッフル、各グループ一人を残して他のメンバーは別のグループへ移動した。ラウンド2では、残った一人がこれまで話した内容を共有してから問い②について対話を始めた。引き続き問い③、問い④、問い⑤とラウンドを重ねた。グループ内でたキーワード等は模造紙に書き留めた。対話を重ねていくうちに、テーマのゴール毎に考えるとそれぞれの活動を切り離して考えがちであるが、それぞれのテーマはお互いに効果を及ぼしあうものがあり、単一目標よりも統合的なアプローチが有効であることに気づいた。

以下、ワールドカフェのグループ毎に書き留めたキーワード等。

16. 平和と公正をすべての人に

歴史を学ぶことについて、

日本歴史教育が薄い、戦争を相手に対して悪いイメージを刷り込み、戦争後のことを考える教育がなされていない

今後の歴史教育のあり方

4. 質の高い教育をみんなに

質の高いつて何か(偏差値?レベル?)、海外と日本教育の違い、学校教育だけが教育ではない、といった話が挙がった。私たちはもっとグローバルの視点を持って日本に取り入れるような行動をしなければならぬと思った。

質の高いとは、それぞれの人にとっていい、あった教育ではないか

質の高い教育をするためには先生たちも質が高くなければならぬ、そのためには先生たちに働きがい・やりがいをもてるような制度がなければならぬ

8. 働きがいも経済成長も

日本型雇用システム 年功序列 収支雇用

ひとつの仕事を長く続ける いろいろな選択肢があるなかで、次のステップへ進む後押しへの理解 やめ方を知らない若者

残業が多い、YMCAのみならず、学校教育現場でももっと

ワークライフバランスを提言しよう

5. ジェンダー平等を実現しよう

まだまだ世間で知られていない、行きづらさを感じているのではないか

男だから女だから、世代、時代、日本文化が生きづらさをお互いを尊重するにはどうしたらいいのか
受け入れられない世代もいることへの理解も必要ではないか
性教育を別々にする必要はないのではないか、
小学校で？中学校で？
環境を整えていくことで、今後生理休暇がとりやすくなったりするのではないか
知ることがますます求められているのではないか

12. つくる責任つかう責任

YMCAは環境に対しての活動が遅れているのではないか、ポストイットをたくさん使ったり、ペットボトルをみんな持っていたり。ごみが多かったりする現状がある。



セッションVI

ソーシャルギルド代表理事
山本 佳史氏

「伝える」

“Because I am a Girl(Malala Yousafzai)”

動画 “Because I am a Girl(Malala Yousafzai)”(国際 NGO プラン・インターナショナル)を視聴
国際 NGO プラン・インターナショナルが、日本をはじめ、イギリス、オーストラリア、オランダ、カナダなどで展開しているグローバルキャンペーン。

世界における女性立場について多くの若い女性にインタビューした動画

I message キャンペーン

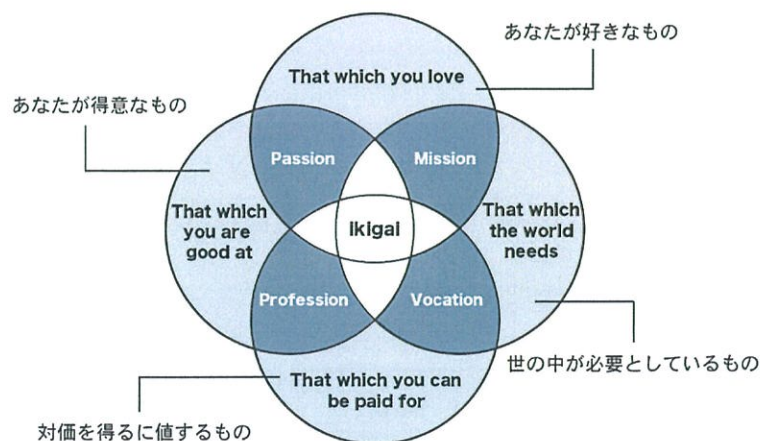
T. ゴードンが「親業」の中で提唱したコミュニケーションの方法。「私メッセージ」とも言う。「私」を主語にして、自分自身をどう感じているかという思いを語ること。

ファンドレイジングにおいて重要なファクターである。当事者意識。

帰るまでに自分のアイ・メッセージを見つけて帰る

自分事として持ち帰る

生きがいのモデル



4つのサークルの交わりに「生きがい」が生まれる。

「自分の意思や関心」「得意分野」「世界で目にする許せない理不尽や解決したい課題」、そして

「お金になること」、転じて自分の立場からは「時間を費やせる、楽しめる仕事、活動」が「社会の要請」と重なっていればハッピー

好きなこと・仕事が求めること・お金になること・得意なこと

〈グループワーク〉

- 1) A4 用紙 4 分割し、好きなこと、得意なこと、お金になること、求められていることを、各自書き出す
- 2) 対話を通じて世界を広げる グループでディスカッション
「私のライフミッション」個人ワーク、フォトランゲージカード(Points of You)を 1~2 枚選ぶ
- 3) これから自分は何をやりたいか、何故かについて一人 2 分程度で発表する
(ポジティブコメントを交換する)
- 4) 各グループから第一発表者を選び、グループ内で順番に報告、感想を述べ合う。
- 5) 「今日あった、今後会う仲間とつくるポジティブネットのすがた」
フォトランゲージカード(Points of You)を 1 枚選んで意見交換する。
カードは各自の意見のキーワードイメージとなる。

グループ① 4 人

選択肢があって、それぞれに尊重するのがポジティブネット

グループ② 4 人

常に喜びがあり、幸せがあふれ手に入る、他人の意思を尊重し、失敗も成功も振り返りながら前を向けるのがポジティブネット

グループ③ 5 人

いろんな要素がありつつもその要素を植えつけることができるのがポジティブネット

グループ④ 5 人

何でもできる視点 いろんな視点を持って対応できる、一人の視点だけではだめで、YMCA 外でもポジを形成していくことができればよい。それがポジティブネット。

グループ⑤ 5 人

同じ方向を見ていきたい、ともに過ごして聞く、助け合っていく、苦しんでいる人たちにも楽が伝わればよい、ちょっと楽、ちょっと良いが広がっていけば良い。

講評

ここにポジティブネットがすでにある。参加者がその中にすでにいる雰囲気があった。

それを理解したうえで、さらに広げていけたらよい。参加者各自が、所属 YMCA のポジティブネット創造部である。

中日本地区 YMCA

第 18 回（2017 年度）グローバル教育研修会 閉会礼拝順序

日時： 2019 年 2 月 17 日（日） 15：00～15：20

場所： 六甲山 YMCA

司会： 上村 香野子（富山 YMCA）

黙禱

賛美歌 21 425 番 「 こすずめも、くじらも 」 一 同

聖書朗読 マタイによる福音書 5 章 9 節 司会者

「平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる」

祈 禱 //

メッセージ 「平和を実現する人」

三枝 隆（奈良 YMCA 総主事）

祈禱 //

賛美歌 21 419 番 「 さあ、共に生きよう 」 一 同

黙禱

第19回(2018年度)中日本区YMCAグローバル教育研修会 参加者

NO.	名前	ふりがな	派遣YMCA	YMCAでの所属または担当	部屋
1	河原 幸佑	かわはら こうすけ	富山YMCA	ユースリーダー	313
2	住吉 楓香	すみよし ふうか	富山YMCA	ユースリーダー	321
3	村上 寛太	むらかみ かんた	富山YMCA	ユースリーダー	313
4	福嶋 廣宗	ふくしま ひろむね	富山YMCA	フリースクール生徒	313
5	安田 蓮	やすだ れん	滋賀YMCA	野外リーダー	313
6	小西 菜月	こにし なつき	奈良YMCA	野外リーダー	321
7	永山 優香	ながやま ゆうか	大阪YMCA	大阪YMCA国際専門学校	322
8	大川 寧々	おおかわ ねね	大阪YMCA	大阪YMCA表現コミュニケーションコース 非常勤	322
9	内山 雅文	うちやま まさふみ	大阪YMCA	大阪YMCA統括本部スタッフ	105
10	立花 祐里彩	たばな ゆりあ	大阪YMCA	大阪YMCA表現 コミュニケーションコース	321
11	高月 渚	たかつき なぎさ	神戸YMCA	ラオスワークキャンプ	321
12	戒井 優衣	えびすい ゆい	神戸YMCA	神戸YMCA学院専門学校 ホテル学科1年	321
13	吉間 奈央	よしま なお	神戸YMCA	神戸YMCA学院専門学校 ホテル学科1年	321
14	KETELAARS, KEVIN	けてらーす けびん	神戸YMCA	神戸YMCA学院専門学校 ホテル学科2年	313
15	中庭 吉規	なかにわ よしき	神戸YMCA	神戸YMCA学院専門学校 ホテル学科2年	313
16	川北 陽子	かわきた ようこ	神戸YMCA	神戸YMCA高等学院教員	209
17	高 彰希	こう ちゃんひ	日本YMCA同盟	ポジティブネット創造部 インターン	313
18	浅羽俊一郎	あさば しゅんいちろう	日本YMCA同盟	日本YMCA同盟国際協力委員	106
19	花岡 南	はなおか みなみ			322

講師・奨励者

20	山本 佳史	やまもと よしふみ		ソーシャルギルド代表理事	108
21	片岡 正義	かたおか せいぎ	神戸YMCA	ミッション委員 大阪女学院中学校・高等学校教員	313
22	林 美恩	りん みおん	神戸YMCA	神戸YMCA学院専門学校非常勤講師 日本基督教団神戸聖愛教会宣教師	206

実行委員

23	三枝 隆	みつえだ たかし	奈良YMCA	総主事	109
24	上村 香野子	かみむら かのこ	富山YMCA	職 員	209
25	田尻 忠邦	たじり ただくに	大阪YMCA	職 員	104
26	Dominic Pangrazio	どみにく ばんふらしいお	大阪YMCA	職 員	205
27	相原 シャーリー	すぎのはら しゃーりー	大阪YMCA	職 員	322
28	北田 まあや	きただ まあや	大阪YMCA	職 員	322
29	松田 道子	まつだ みちこ	神戸YMCA	職 員	209
30	橋本 唯	はしもと ゆい	神戸YMCA	職 員	322

第19回(2018年度)中日本地区YMCAグローバル教育研修会 決算報告

多くのお支えとご協力によりまして、第19回のグローバル教育研修会を滞りなく終えることができました。
ここに感謝をもって下記のごとく決算の報告を申し上げます。

2019年2月17日

中日本YMCA国際事業担当者会
(グローバル教育研修会実行委員会)

収 入			支 出		
参加費	全日程@8000×17	136,000	宿泊費		179,000
送迎バス代	@2000×17	34,000			
運営補助金	ワイズ西日本区支援 (同盟経由)	200,000	食費		124,300
運営費	中日本YMCAより	133,800	会場費		59,900
献金		10,000	講師謝礼・交通費		84,000
			交通費補助		41,000
			プログラム費・事務費		25,600
収入小計		513,800	支出小計		513,800
収入計		513,800	支出計		513,800



日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区本塩町 7
TEL:03-5367-6640 FAX:03-5367-6641
E-mail:info@ymcajapan.org